

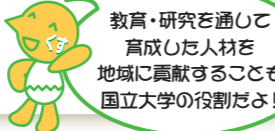
「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)」に採択されました!



COC+とは?



国立大学が地方の自治体や企業と協働し、地方の雇用創出と就職率向上を目指す!!

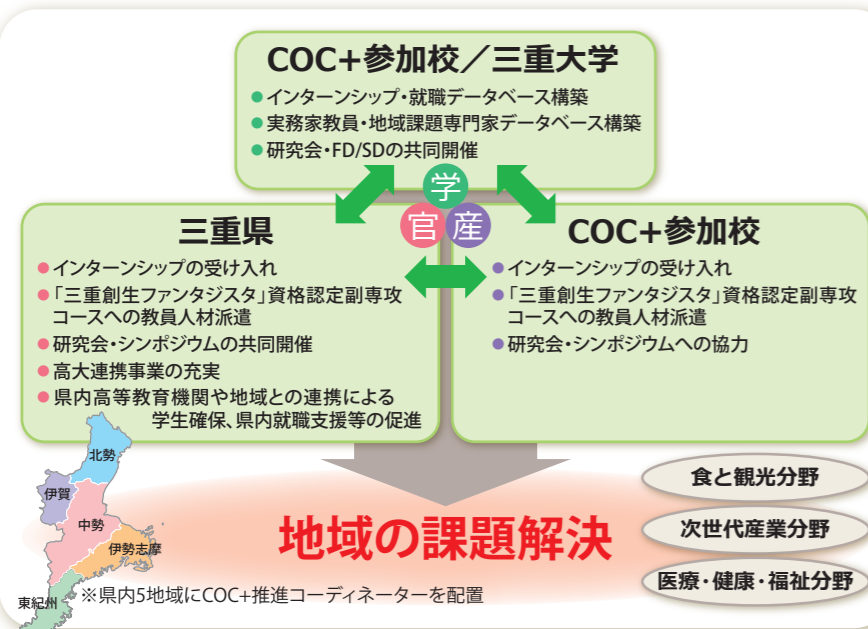


現在、急激な少子高齢化や人口減少、特に若者人口の減少が大きな問題となっています。さらに若者人口の県外流出により、県内地域の過疎化、経済規模の縮小が懸念されています。

このたび、三重大学は文部科学省「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)」に採択されました。採択された各国立大学は地域社会の中心となり、各地域が抱える問題の解決に取り組めます。

今回の特集では、三重大学のCOC+事業における事業内容と、今後の意気込みを紹介します。

◎地域人材の育成で地方創生を目指す!



三重大学の卒業生の県内就職率は33%程度に留まっています。三重大学を卒業した人材にもっと三重県で活躍してもらうためには、三重県の特徴や問題を把握し、何より三重県を愛する地域に根ざした人材の育成が必要です。

しかし、地域の雇用創出と、就職率の向上を実現するためには、三重大学だけの取り組みでは不十分です。地元企業や自治体、教育機関など、三重県内の全てのCOC+参画機関が力を合わせ、「地方創生」に向けて取り組むことが重要です。



◎三重創生ファンタジスタとは!?

「三重創生ファンタジスタ」資格認定副専攻コース

地方創生のエンジンとして活躍

三重創生ファンタジスタ

- 食と観光分野
- 次世代産業分野
- 医療・健康・福祉分野

3つの科目群から12単位以上修得

1~2年次	2~3年次	3~4年次
地域志向科目群 (必修・選択必修) 4単位以上 <ul style="list-style-type: none"> ● 三重県の自然・地理・歴史・文化・産業・教育・医療の実態について学び直す ● 講義形式中心(ゲストスピーカーの招聘) ● 創造力・問題発見・探究力・郷土愛 ● 「スタートアップ・セミナー」(全学必修科目) 	地域実践交流科目群 (選択) 2単位以上 <ul style="list-style-type: none"> ● 地域に入り、地域の活動に参画することを通して、現状や課題を体験的に理解する ● PBLセミナー、熟議・討論型授業、インターンシップ、実習(現地・現場) ● コミュニケーション力、実践・行動力、情報収集・分析力、理解・判断力 	地域イノベーション学科目群 (選択) 2単位以上 <ul style="list-style-type: none"> ● 地域の人と協働しながら、地域や産業の活性化・再生にむけたプロジェクトや共同研究を組織し、アイデアやプランを提案する ● プロジェクト、共同研究、プレゼンテーション ● 柔軟な発想・構想力、複眼的・俯瞰的な思考、企画・計画力、リーダーシップ



三重大学長 駒田 美弘

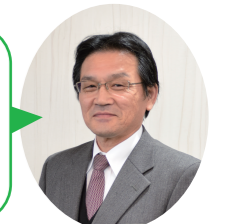
三重大学は、地域イノベーション大学として、地方創生、地域の活性化に取り組んでいます。その戦略として、

- ① 地域人材の育成と若者を地域に止め置く機能
- ② 研究成果を地域に還元する機能と地域の様々な主体となるハブ機能
- ③ 地域の力の発信する機能

を強化していきます。この3つの機能強化の中で、「地域人材の育成と若者を地域に止め置く機能の強化」は、まさに「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+事業)」の目的でもあります。今回のCOC+事業計画の策定には、三重県、県内の29市町、県内高等教育機関、および企業の皆様方に全面的にご協力をいただきましたし、今後の事業実施においてもしっかりと協働して取り組んでいく予定です。鈴木英敬三重県知事、および県内29市町の首長様には直接お会いして、COC+事業を含む三重大学の機能強化構想にご協力いただくことをお願いしました。と同時に、地方創生における三重大学の責務がいかに重いものであるかも痛感しました。三重大学は、「三重県における地方創生の地(知)の拠点」として、不退転の決意を持って、本事業に取り組みたいです。

「ファンタジスタ」は優れた選手を指すサッカー用語だよ!

「ファンタジスタ」には、「地域創生のエンジン」として、状況や事態を的確に把握し、複眼的な視点から、柔軟で想像力と創造力に富んだ発想や思考ができ、行動力とリーダーシップを発揮しながら、周りの人と協働できる人」という思いが託されています。新たにスタートする「三重創生ファンタジスタ」資格認定副専攻コースは、「地域志向科目群」・「地域実践交流科目群」・「地域イノベーション」学科目群の3つのステージと、「食と観光」・「次世代産業」・「医療・健康・福祉」の3つの分野で構成されています。それぞれのステージと授業は、教室で完結する教育や学修ではなく、「知る」(三重県や地元を再発見し再認識する)―「学ぶ」(自らの体験・経験をを通してリアルな今を学ぶ)―「考える」(知識や経験を再構成し、自らのプランやアイデアを提言・発信する)という体系として構成するカリキュラムであり、理論と現場実践の往還として展開するプログラムです。地域イノベーションのリーダーとして、一つの事柄、自分の専門を多様な視点からとらえていく力を身につけて欲しい。そのため、必要に応じて他学部で開設されている授業が履修できるような学部横断的な学修の広がりを持つカリキュラムとして整備していく予定でもあります。



三重大学理事(教育担当)・副学長 山本 俊彦

